

2月14日の公開ヒアリングでの質疑で参加者のかたからご要望のあった「重層的支援体制整備事業」(継続)の具体的な取組事例について厚生労働省より下記のご回答をいただきました。

○重層的支援体制整備事業の取組事例について

重層的支援体制整備事業の実施自治体の取組内容については、社会福祉推進事業において、様々な数自治体へのインタビュー等を通して詳細を把握しております。

弊省で把握している事例の中から、以下の2例をご紹介します。

社会福祉推進事業の成果物については厚生労働省ホームページに全体版を掲載しておりますので、ご参照ください。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/chiikikyosei/03kenshyu_00005.html)

○広島県廿日市市

自治体からの委託を受けたNPO法人が運営主体となり、「地域づくり」やインフォーマルサービスの担い手発掘、育成を目的としたゼミナール形式の講座「暮らしのことゼミナール」を開催している。

暮らしの中の問題意識を探り、地域との関わりにつながる企画を考え、実践し、その後、参加者間で結果を共有するという流れで実践している。

参加者が始めた取組の実例の中から、合同会社を立ち上げ、地域の空き店舗を借りて、誰もが自由に過ごすことのできる居場所や働く場を作ったり、認知症カフェを開催したりという新たな活動が生まれている。(令和4年度。)

【参照】令和4年度社会福祉推進事業

「重層的支援体制整備事業「地域づくり」推進のための手引き」P.63

<https://www.mhlw.go.jp/content/chiikizukuritebiki-R4.pdf>

○京都府長岡京市

複雑・複合化した課題を抱え、既存の制度・サービスでは対応できないケースについて支援していくためには、「地域に居場所がある」「支援者同士が支援の方法を共有する機会がある」等の体制が必要と考えた市が中心となって、プラットフォームを立ち上げた。

このような体制を構築するため、支援者・活動者がもっと自由に、もっと主体的に「つながる」ことができる場所を作るという目的で、「とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム」を構築している。(令和5年度 とりこぼさない支援をうみだす交流会を4回実施)

企画・運営に関わるコアメンバーとして、市内のNPO法人や社会福祉協議会、市民活動団

体等からの有志が参画し、意見交換を行っている。

参考：(交流会参加人数：第1回 49名 第2回 55名 第3回 54名 第4回 約60名 (集計中))

【参照】とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム

<https://www.city.nagaokakyo.lg.jp/0000013707.html>